

<b>スクールミッション</b>	校訓「御互いに敬愛の實を挙げよう」「自己の本分は自ら進んで盡そう」のもと、米沢市にある工業高校として、実践的・協働的な学習に取り組むことで、たくましい実践力、健康で心豊かな人間性、新たな時代を担う豊かな創造力を身に付け、持続可能な地域や社会の創り手となり、その発展に貢献する人材を育成します。	達成度 A：達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分
------------------	--	---

重点目標		評価項目	今年度の達成状況	自己評価	次年度に向けた改善策	学校関係者評価
1	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 ①地域連携による探究型学習の推進 ②社会の一員としての社会参加活動 ③実践的・協働的な学びの推進	①自己と他者を尊重し、志高く協働して挑戦する力	教科・科目を問わず、一人一台PCを活用したグループワークなど協働的な学習方法を積極的にに行った。 【(教員)自作教材・教え方の工夫している93.8%、(生徒)評価は総合的81.1%】	B	評価方法の研究	(1) スクールポリシーがしっかり設定され、それを実現するための重点目標3項目を設定し、年度毎に前年度の課題を踏まえた各項目に対する取り組みを設定されておりPDCAが意識されていることが伺えますが、目標(可能な限り数値が達成した状態)と結果、達成できなかった場合は原因が分かりやすく整理されると、さらにPDCAが回るように思います。 (2) インスタライブや出前授業は大変良いと思います。工業高校(鶴城高校)ファンをどんどん増やしてください。通級指導対象者は小・中学校の現状を見ると、今後増えるものと考えられます。SSW活用ももちろんですが、独自の対応も必要かと思われます。 (3) 社会に根差す学校として地域企業等との連携が進められていること喜ばしく思います。地域とのつながりは人とつながりでもあります。敬愛精神のもと社会に求められる人材育成を期待します。 (4) 新しい学校の情報をぜひ中学校にお寄せください。期待感のあふれるPRを中学生は求めています。難しい説明よりは明るい未来を感じられる機会を与えていただければ幸いです。 (5) 様々な推進事業を展開されていることで、米工の魅力が高まっています。先生方一人ひとりのモチベーションの高さを感じられます。人と人がよりよくなる取り組みがさらに展開されることを望みます。 (6) SDGs、インクルーシブ教育は多様性のこれからの世代にはより重要視されると思います。継続して推進してください。 (7) 個を大切に一人ひとりの将来を考えた学校経営が進められていると感じます。幅広い能力開発が実現するような、また、これからの時代に行く生きる能力が身に付くような学習環境をさらに整備してほしいと思います。 (8) より社会人に近い学生として外部機関と密に連携し、短期・長期目標の目線を重視した取り組みが行われている。目標選定からPDCAのサポート継続願います。
		②実践的・協働的な学びによって専門性を高め、次代の産業を支える力	「キャリア探究」「課題研究」を中心に自己理解・他者理解を深め、協働的な活動を計画的に実施することができた。【「キャリア探究」の計画的実施、「課題研究」における地域課題5テーマ】	A	「課題研究」における課題設定等の改善と研究	
		③広い視野で創造力豊かに、持続可能な地域や社会を実現できる力	上杉まつりへの参加や課題研究での地域文化財等の調査活動など、地域と一体となった充実した活動を行うことができた。	B	SDGsとの結び付け	
2	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 ①ICT活用の研究と効率的・効果的な学習方法の研究 ②令和7年度米沢産業高校(仮称)開校に向けた教育課程の編成 ③企業や大学と連携した実習などの授業展開の研究	①「キャリア探究」など、社会とつながる学びを実現する授業や特別活動の実施	地域コンソーシアムと連携し米沢商業高校と合同で「WakuWakuWork(ワクワク・ワーク)」を行った。【(生徒)学校は進路についての情報をよく知らせてきている87.8%】	A	取り組みだけに終わらない実践の評価をする必要がある。	
		②工業に関する知識や技術を身に付け、産業社会で生かすためのICTを効果的に活用。	外部講師によるICT研修会を年2回実施し、研究授業も実施した。また、UAV(ドローン)を活用した測量技術などICT活用の授業展開を進めた。	B	ICT活用スキルの向上と先端技術を学ぶ機会の増加	
		③大学や市町村、企業との連携・協働により、学びを深める学習活動	山形大学工学部と連携し、メーカーズフェアへの参加や研究施設での体験などを実施した。また、今年度もインターンシップを実施したが、デュアルシステムに向けたカリキュラムのあり方を研究する必要がある。	C	大学や企業での体験に終わらない、学習活動を進める必要がある。	
3	(3) 入学者の受入れに関する方針 ①学校見学会、出前授業などの実施 ②HPやSNS、学校パンフレットによる訴求効果の向上と改善 ③合理的配慮の必要な生徒への組織的対応や通級、SSWの効果的な活用	①志望する動機及び目的意識が明確で、ものづくりや創意工夫することに興味・関心がある生徒の募集	インスタライブの実施など中学生への訴求のためのPR活動を行った。【学校見学会260名参加】	A	活用方法の共有とICTの効果的な方法の研究	
		②ものづくりなどを通して社会の課題解決に取り組み、地域との関わりを持って将来の産業を担いたい生徒の募集	小中学生を対象としたものづくり体験教室を各課で実施した。【各課で8月実施、上郷小6年生児童保護者ものづくり体験2月実施】	B	日程や広報を工夫し、参加者を増やす取り組みが必要	
		③体育・文化活動や生徒会活動に積極的に取り組んだ生徒の募集	インターハイ出場(スキー)、高校生ものづくりコンテスト全国大会出場(化学分析)	B	継続的に上位大会出場を果たすための体制や仕組みづくり	
4	その他	米沢鶴城高校教育基本計画に保わり、校内外と連携をしながら新高校に相応しい教育課程や施設・設備、制服となるよう検討を行う。	概ね予定通り進めることができた。	B	外部への新高校のPRをすることだけでなく、期待感を高める取り組みについて行う必要がある。	
		「いじめは絶対に許さない」、「いじめは卑怯な行為である」、「いじめほどの子どもにも学校でも起こりうる」との共通認識を持ち、いじめから生徒を守るとともに、いじめを認知した場合は全教職員の共通理解のもと適切な対応をする。	今年度いじめ認知1件【(生徒)命の大切さや人権を尊重し、いじめ防止に積極的に取り組んでいる。87.2%】	B	新高校に向けた新しい生徒指導の在り方を検討	
		特別支援に関する教員への研修機会を提供し、専門性の向上を図る。	通級だけでなくSSWなど学校内外での活用について積極的に取り組んだ。	B	有効な活用についてさらに研究を進める必要がある。	
		一斉メールの配信やホームページの更新により、タイムリーで的確な情報発信を図る。	さくら連絡網は積極的な利用がみられた。次年度導入の「Classi」をどのように活用するか、また、HPとSNSの活用について研究を進める必要がある。 【(保護者)一斉メールの配信があり役立っている。97.4%】	B	HPとSNSの活用方法や更新について検討が必要	

課程	重点目標	評価項目	今年度の達成状況	達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価
専攻科	①「自立・自律」を認識し、組織の一員としての責任を持ち、「自ら考え、自ら学び、自ら行動する」能力の育成 ②地域社会との連携・協働により、創造的・実践的な学習活動を行います。 ③自己のあるべき姿を明確に保持し、実現のためのキャリアプランを有する生徒	実践的・協働的な活動を自ら計画しPDCAを意識しながら取り組むことができる。	米粉類の商品開発、高畠町と連携したV-tuber制作、AI小型ロボット製作など外部と連携した取り組みが成果を上げた。	B	探究的な取り組みにつながる外部連携の在り方の研究	○地域社会との連携が図れ、高いレベルの経験、実践的な学習活動ができています。貴重な修業期間を社会人として活かせる取り組みを進めていただければと考えております。 ○幅広い広告活動が行われていると思います。卒業後の進路等についても明示することでより入学後のイメージがつかもかもしれません。 ○DualStudyの最先端を走っていると思います。これからもバズール型教育・育成を継続実施することが肝要と思います。
		地域コンソーシアムや地区内外の団体との連携を強化し、産業界と一体となった社会に開かれた教育課程の開発・実践を図る。	果教委が策定した「専攻科活性化・魅力化の方向性〜WGによる検討まとめ〜」を受け、今年度の具体的な取組みとして、①新たな学校紹介パンフレット、②新しい入学選抜方法の実施、③令和6年度入学生教育課程の準備を滞りなく実施することができた。	B	新学科カリキュラムの実施と検証	
		入学者増につなげるため広報・情報発信の強化を図る。各種展示会やイベント、コンテスト等への積極的な参加及び出展を行う。	HP、instagramなどで日々の学習の状況など広報活動を行っている。国際イノベーションコンテストに出展・発表するなど積極的な取り組みができた。CVG東北において東北最優秀賞を受賞した。	B	入学者増への取り組みの実施	